

思い出の校舎とお別れ

旧校舎お別れ式が2月21日、鷹島小学校で行われました。同校は、明治7年「遠通えんつう小学校」として開校。

この日は、校舎の廊下に保護者らを含む卒業生の写真や作品を展示。体育館では各世代の思い出写真をスライドショーで振り返りました。その後、全校児童88人が将来の夢や校舎への思いを書いたカードを風船に結んで飛ばし、思い出の校舎との別れを惜しみました。

新年度からは鷹島中学校横に建設された新しい校舎に移転する予定です。



音楽でみんなを元気に

福岡県を中心に活動する舞台ユニット「スカースカ」が2月19日、コロナ禍で十分に遊べない子どもたちを元気づけたいと、上志佐小学校を訪れました。同ユニットはチェロ、バイオリン、ピアノを使ってさまざまな曲を演奏。聞き覚えのあるクラシックやアニメ曲が演奏された後、登場人物ごとに声色を変えて朗読された「三枚のお札」に、子どもたちは大喜び。

講演後、「楽器を弾けるようになりたい」という感想や「弦は何で作られているの」と質問が飛び交うなど、子どもたちは興味津々でした。



熱い思いを訴える

消防職員意見発表会が2月17日、松浦市消防本部で開催されました。同会は、消防職員の自覚と志気の高揚、資質向上を目的に毎年開催されています。

この日は6人の職員が、日々の職務を通じて得た教訓や抱負、提案など各自テーマを定めて発表しました。

コロナ禍で消防・救急業務も改善する必要があることや立入検査や救急法指導などをリモートで行うことで人との接触を減らし、同時に複数の事業所へ指導を行うことを発案した立石滉太さんの「新しい消防様式」が最優秀賞に選ばれました。

立石さんは、4月6日に平戸市で開催される第44回長崎県下消防職員意見発表会に出場します。

最優秀賞の立石さん▶



「赤とんぼ」が5年連続受賞

御厨中学校PTAが作成している広報誌「赤とんぼ」が、第28回長崎新聞PTA広報紙コンクール手作りの部で優秀賞を受賞しました。

同誌は、第24回同コンクールでグランプリを受賞。その後、毎年奨励賞を受賞しており、今年で5年連続の入選となりました。

「赤とんぼ」は、御厨中学校の保護者9人で構成される広報部が、年間14回発行しています。部長を務める氏山智美さんは「部員で記事をチェックするなど協力しながら、各家庭で話題になる特集や企画を考えています」と話してくれました。

▶ 広報部を務める
氏山さん(左)と松尾さん(右)

